

「懐山のおくない」は国のお宝なんです。

「日送りの修正会」お正月に行う「おくない」

三日堂	寺野のひよんどり	宝蔵寺観音堂	1/3
四日堂	現在は消滅	万福寺薬師堂	
五日堂	懐山おくない	新福寺阿弥陀堂	1/5→1/4→1/3
五日堂	神沢のおくない	万福寺阿弥陀堂	1/5→1/4
六日堂	黒澤田楽	峰福寺阿弥陀堂	1/6→2/第1日曜日
七日堂	滝沢のおくない	安楽寺大日堂	1/7→1/4
八日堂	川名ひよんどり	福満寺薬師堂	1/8→1/4

懐山の

おくない

保存版 02号

中世の時代、修験者が花祭や霜月祭・田楽など、三遠南信地域の民俗芸能は修験者が伝えたといわれる。

私たちのこの地域には日送り修正会があり三日堂から八日堂までの日送りのおくないは、この修験者が日ごとに各地域を廻り祭りを伝えていったと考えられる。

修験者を山伏という。「山伏」は、山に臥ふしながら、修行を重ね、験しるしを会得する修行の様を表わした言葉である。修行に明け暮れる修験は独自の術をもっている。その術が祭りが各地に見られる。

「おくない」がいつ頃から始まったかは、分からないが、平安末期から行われていたという言い伝えがある。祭りの芸能を営む組織のようなものは確認されていないが、面清めを受け持つ大石禰宜家と阿弥陀堂の



懐山は、天竜区を中心の二俣から阿多古川に沿って北西方向に十キロほど遡った山間の集落である。「懐山のおくない」は今は泰蔵院で行われているが、もとは新福寺阿弥陀堂で行われていた。この新福寺阿弥陀堂は、明治初年の廃仏毀釈の際に本尊阿弥陀如来を泰蔵院に移し、お堂も移築してしまつて今はない。

鍵取りをしてしている下山家は、この祭りと深く関わってきた。 ※鍵取りは神社やお堂の扉の鍵を預かり、祭りをつかさどる家筋をいう。 「おくない」は、現在一月三日の午後一時ごろから六時ごろの間に行われている。しかし元は一月五日であり、大正の末に四日に変わり、戦後昭和三十年代の末に三日になったと地元では伝えられている。



が良く表れている。その中の「塩買ひ」や「綿買ひ」など他には見られない演目があり、この綿は蚕の綿である。 駒の舞では仲買人の「ばくろう」が馬の良否を見分ける問答には、他にはないおもしろさがある。 平成六年（一九九四）に、川名のひよんどり、寺野のひよんどりと共に「遠江のひよんどりとおくない」として国指定重要無形民俗文化財の指定を受けた。

元は五日であったことは、新福寺阿弥陀堂が地元では「五日堂」と呼ばれていることから分かる。また時間も、「宵の獅子」と「夜明けの獅子」があることから、夕方から始まり夜明けまで行っていたことが分かる。 また田遊びと呼ばれる芸能には、当時の村人の生活

各地のおくないとの次第には共通点も多くあります。

懐山のおくない 次第	不動様の水汲み 面清め 阿弥陀様の祭り 三々九度の盃 伽藍様の祭り 泰蔵院内の祭り 神の舞 三つ舞 槍の舞・もどき 片剣の舞・もどき 両剣の舞・もどき 翁 松かげ 宵の獅子 鬼の舞 仏の舞 年男 女郎の舞 稲むら 駒の舞 猿追 綿買 塩買 田植 汁かけ飯 悪魔払い 夜明けの獅子 舞おさめ
---------------	---

**注目点**  
三日堂から八日堂までのそれぞれの  
おくないをの次第を見ると片剣や両剣  
の舞、獅子はすべての次第にある。ま  
た神の舞、年男、綿買、塩買など  
は懐山独自の次第と思われ興味深く山  
間部の生活の様子が伺える。  
それぞれの次第で各共通点が見えて  
芸能文化の伝わり方を示している。

寺野のひよんどり 次第	伽藍祭り 本堂祭り ひよんどり 順の舞 巫女の舞 万歳楽 三つ舞 片剣の舞・もどき 両剣の舞・もどき ひのう 予の舞 栗穂の舞 杵の舞 女郎の舞 翁 松かげ 獅子の舞 鬼の舞 ねこざね
----------------	--

川名のひよんどり 次第	シノウチ 的打ち 水垢離 タイトボシとヒドリ 堂内祭事 ウタヨミ 禰宜の舞 旬の舞(正) おんばの舞 順の舞(大) はらみの舞 片剣の舞 片稲藁の舞 両剣の舞 両稲藁の舞 獅子の舞 伽藍鎮め 汁かけ飯 田遊び
----------------	--



神沢のおくない 次第	本堂祭り 神うた 順の舞 万歳楽 片剣の舞 両剣の舞 獅子の舞 鬼の舞 猿追 蛙塗 夜明けの獅子 予の舞
---------------	---

黒澤田楽次第	小神祭り 鎮守社内 鎮守の舞 更彌陀の舞 はやしもの・とこ つる・源蔵改 つるぎの舞・もどき 矛(火の王舞) 杵の舞 獅子の舞 駒の舞 みのくち・おくな 松かげ・三番叟 くなたくり きぬきせ いみぞさらえ 田うち・しばかり しばしき・いもゆゑ もみまぎ 鳥追 麦刈り 桑取り 麦つき・米つき ひる あらう 田うゑ ひるめし あわとり・あずき まめ・いもとり としのみ いなぼら げとうばらい
--------	--

がんばろう「懐山おくない」の集い ～飯でも食いながら話さまいか～

国のお宝「懐山おくない」を次の世代に継承していくために、皆で話し合いませんか。  
当日は、おいしい弁当を食べながらのなごやかな会です、各戸で参加してくれることを期待します。  
寺野のひよんどりの伊藤八右さん、浜松市無形民俗文化財保護団体連絡会の柴田宏祐さん、  
上嶋裕志さんが講師を務めてくれます。

期日 11月2日(日) 11:00～  
会場 懐山 泰蔵院  
内容 ・昼食 竹泉の弁当(無料)  
・遠江のひよんどりとおくないDVDの視聴  
・寺野ひよんどりから見たおくない 面と笛  
・懇談 おくないを継承するためにどうしたらよいか

**参加無料 お弁当付**

伊藤八右氏